牛ウイルス性下痢・粘膜病の発生事例と対応：伊那家畜保健衛生所　中島純子

平成（H）25～26年、複数の農場で牛ウイルス性下痢・粘膜病が発生。事例1：H25年5月、A公共牧場から下牧後の初妊牛が流産し、胎子から牛ウイルス性下痢ウイルス（BVDV）遺伝子検出。本例ではA牧場へ預託中の牛または下牧後の牛6戸12頭が流産もしくは持続感染牛（PI牛）を娩出。事例2：H25年8月、B公共牧場から下牧後の育成牛がPI牛と判明。調査でさらに4戸5頭のPI牛を確認。事例3：H26年4月、県外転出子牛がPI牛との情報を得て農場調査。母牛はH25年にC公共牧場に預託。本農場では別のC牧場下牧牛1頭もPI牛を娩出。各事例の調査で計24戸244頭のBVDV検査を実施。事例間に直接的な関連はなく、各公共牧場でのPI牛を介した感染拡大と推察。発生後の対策として預託前のワクチン接種及びBVDV検査の推奨、バルク乳BVDV検査延べ186件、研修会や広報による啓発等を実施。各事例とも発生要因の特定とその後の対策により、H26年4月を最後に新規発生はない。